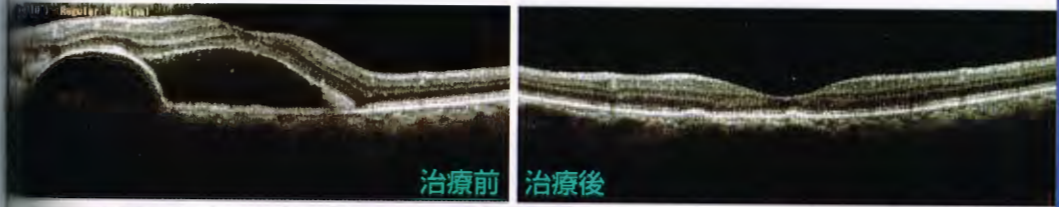


加齢黄斑変性 進化する治療法

早期治療で改善も



網膜の中心部の黄斑にむくみが生じた網膜断層検査の画像(左)。治療後、むくみが改善されているのが分かる(右)



新生血管の成長や増殖を抑える薬剤を眼の中に注射する抗血管新生療法。点眼麻酔のみで痛みはほとんどなく、治療後の生活制限もない。

50歳以上に多く発症し、著しい視力低下を招く加齢黄斑変性。白内障や緑内障と比べるとなじみの薄い病名だが、米国では中途失明原因のトップを占めており、日本でも高齢者の増加に伴って急増、視覚障害原因の第4位となっている。かつては「不治の病」と考えられていたが、さまざまな治療法が登場し、治療成績は飛躍的に向上した。多くの症例を手掛けてきた「たがわ眼科クリニック」の田川茂樹院長に、病気の特徴と最新治療を聞いた。

網膜の中心にある「黄斑」は多くの視細胞が集まり、物を見るうえで重要な役割を果たす。この黄斑が加齢によって異常をきたし、視野の中心部分が見えにくくなったり、物が歪んで見えるのが加齢黄斑変性だ。

現時点で正確な発症率を把握することは難しいが、福岡県久山町の住民を対象に2007(平成19)年に行われた調査では、50歳以上の1.3%に加齢黄斑変性が認められた。日本の人口に換算すると、推定患者は

約70万人となる。同地で9年前に行われた前回調査から約2倍に急増しており、社会の高齢化や生活の欧米化などによって今後、患者数はさらに増加すると考えられている。

いったん異常が起きた黄斑は完全に元の状態に戻ることはいないため、早期発見、早期治療が重要だ。最も手軽な検査法は格子状の試験表(別掲)を使ったもので、「線が歪んで見える」「中心が見えにくい」といった症状が見られる時は発症している可能性がある。

田川茂樹 院長

金大医学部卒業。金大附属病院眼科助手などを経て2009年2月、たがわ眼科クリニック開院。04年、北陸で初めて加齢黄斑変性の光線力学的療法(PDT)を行う。



「片眼に異常がある場合、良い方の眼がカバーして発症に気付くのが遅れやすい。セルフチェックは必ず、片眼ずつ行ってほしい」(田川院長)

加齢黄斑変性は、黄斑の変化の仕方によって「萎縮型」と「滲出型」に分けられる。萎縮型は徐々に黄斑の網膜の細胞が減り、長い時間をかけてゆっくり視力が低下する。一方、滲出型は健康な状態では見られない異

常な血管(新生血管)が網膜の外側にある脈絡膜から発生して滲出病変を来し、黄斑を障害する。萎縮型より進行が速く、黄斑部に出血やむくみが生じ、急速な視力障害を引き起こすことがある。

新生血管の成長を抑制

病状の進行が緩やかな萎縮型は進行を予防するサブプリメントが効果的との報告があるが、現在のところ、これといった治療は行われていない。近年、目覚ましく進歩したのが滲出型の治療法である。「新生血管の増殖や成長を抑える薬剤を眼の中に注射する」抗血管新生療法が治療の第一選択。ルセンテ

イス、アイリーア、マクジエンという3種類の薬があり、最初3カ月は月1回、その後は定期的に診察して、新生血管の活動が見られれば再度注射する(田川院長)

09年3月に認可されたルセンテイスは治療効果が高く、現在、最も多く使用されている。アイリーアは昨年11月に認可されたばかりだが、臨床試験の段階ではルセンテイスと同等の効果があるとされ、効果がルセンテイスより長く持続する報告もある。さらに、ルセンテイスで効果がみられない症例で治療が奏功するケースも多く、今後ますます使用されていくと見込まれる。しかし、これらの薬では脳梗塞や

心筋梗塞の既往患者が使うと再発の可能性がある。そこで、こうした患者には治療効果は先の2つより低いものの、より安全性の高いマクジエンを使う。

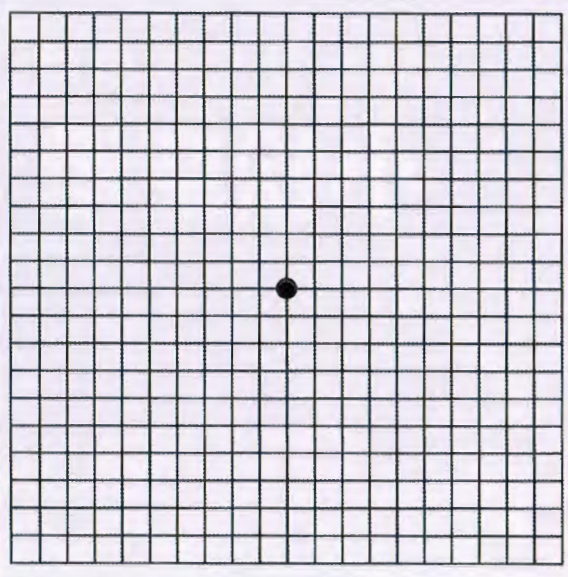
田川院長は加齢黄斑変性を専門に研究した北陸でも数少ない眼科医である。これまで約600眼を抗血管新生療法で治療し、その後1年間の経過をみると、45%で症状が改善、50%で症状の進行を食い止めた。抗血管新生療法では年に数回、注射を打つと数十万円単位の費用が必要となるが、ルセンテイスは今年8月に保険適応の拡大が認められており、将来的には保険点数が下がって経済的負担が軽くなる可能性もある。

抗血管新生療法で効果が見られない場合、光に敏感に反応する色素を静脈内に注射し、黄斑の新生血管に達した時に弱いレーザー光を照射して新生血管だけを破壊する「光線力学療法(PDT)」を検討する。田川院長は04年に北陸で初めてPDTを行って以来、600眼以上の豊富な症例を手掛けている。

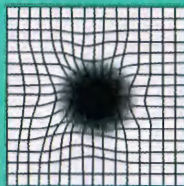
「加齢黄斑変性では従来、症状が出てから治療を開始する「リアクティブ治療」が中心だったが、症状が出る前に治療を始める「プロアクティブ治療」が大切だ(田川院長)

かけがえのない視力を守るためにも、50歳を過ぎたら定期検診を心掛けたい。

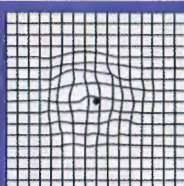
加齢黄斑変性 チェックシート



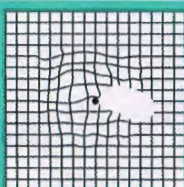
左記のように見えたり、以前と比べて見え方がひどくなった場合は、担当医に相談したい。



線がぼやけて
薄暗く見える

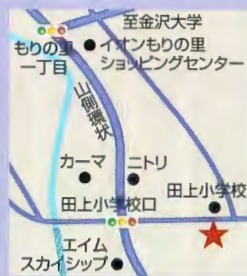


中心が
ゆがんで見える



部分的に
欠けて見える

たがわ眼科クリニック



金沢市田上町17街区10
TEL.076-223-4146
診療時間/9:00~12:00
14:30~18:00
休診/木・土午後、日、祝

<http://www.tagawa-eye.com/>